

第17回

伊賀市非核平和推進中学生広島派遣事業

報告書

2023（令和5）年8月5日（土） 6日（日）



伊賀市・伊賀市教育委員会・伊賀市中学校長会

第17回 伊賀市非核平和推進 中学生広島派遣事業 派遣生徒 紹介

崇広中学校
豊岡 美結



緑ヶ丘中学校
松本 優奈



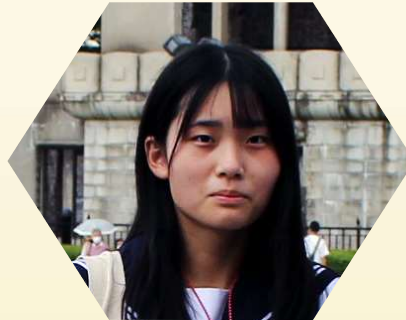
城東中学校
壺井 善



上野南中学校
山崎 理子



柘植中学校
中村 心菜



霊峰中学校
久保 杏花里



島ヶ原中学校
渡邊 茅



阿山中学校
山口 慶子



大山田中学校
山本 乃々華



青山中学校
山本 侑良



伊賀市非核平和推進 中学生広島派遣事業 事業行程

7月28日（金） 事前学習会



8月5日（土） 出発式



8月26日（土） 報告会



8月6日（日） 解散式



8月5日（土）

折り鶴の献納・原爆ドーム等見学



市内の公立中学生一人ひとりが平和への祈りを込めて折った折り鶴を、原爆の子の像に献納しました。

また、核兵器の廃絶や平和のシンボルである原爆ドームや、被爆と敗戦の混乱の中、人々に生きる勇気を与えた被爆アオギリなどを見学しました。

被爆体験講話



3歳のときに、原子爆弾の投下によって止まった鉄道を降りて入市し被爆した「脇舩友子（わきますともこ）」さんからお話を聴きました。

広島平和記念資料館見学



事前学習会で学んだ夏服の展示をはじめ、数々の資料の展示からも、原子爆弾の悲惨さを実感しました。



8月6日（日）

平和記念式典

広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に参列しました。こども代表の言葉は、参加した中学生の心に残りました。



本川小学校見学

爆心地に最も近い小学校として、大きな被害を受けた本川小学校の平和資料館を見学しました。



おりづるタワー

おりづるタワーの展望台から、平和記念公園や広島市街を見て、当時の状況を思い浮かべました。



伊賀市立崇広中学校 豊岡 美結

広島派遣の1日目に、脇舛友子さんの被爆体験を聞かせていただきました。3歳で被爆した脇舛さんは、幼い頃から原爆の放射線による発熱や息苦しさで闘ってきました。闘病を支えるお母さんの、「子どもの命よりも大切なものはない」という言葉が特に心に残りました。この言葉に親からの愛をととても感じて、涙が出ました。私の親もこのように思ってくれているのかなと感じ、親からさずかったこの命を大切に、一瞬一瞬を大切に生きていきたいと思いました。

次に、原爆ドームに行きました。とても悲惨な状態で、かべがくずれ、天井が抜け、原爆ドームの周りにはレンガの破片が散らばっていました。あの小さな原子爆弾一つでこんなに大きな被害を与えていたと考えると、改めて核兵器は恐ろしく、あってはならないものだと思います。平和記念資料館にも、変形した自転車や原子爆弾によって火傷した人達の写真など、当時どれだけ悲しい出来事があったか、肌で感じることができました。戦争や核兵器をなくすために、私は広島での体験をたくさんの人に伝えていきます。

2日目の記念式典では、小学6年生の「平和への誓い」がとても心に残っています。特に「命をつないでくれたからこそ、今、私たちは生きています」という言葉に心を打たれました。当時必死に生き延びてくれたからこそ、現在こうして平和への願いが受けつがれているんだなと思いました。

78年前に起こった悲惨な出来事が忘れ去られないように、私たちが平和のバトンをつないでいきたいです。

伊賀市立緑ヶ丘中学校 松本 優奈

私たちは、被爆体験講話の学習で3歳のときに被爆された脇舛友子さんからお話を聞かせていただきました。脇舛さんは、原爆が投下された直後、あまりの怖さで街や人々の様子を自分の記憶から消してしまっていると話されました。しかし、数日後の街は、血だらけの人や全身が包帯で覆われている人など、今でも思い出したくない光景でまさに地獄だったと、今でも覚えているそうです。脇舛さんは、放射能による後遺症に苦しんだそうです。心臓が上手く機能せず、みんなと同じように食事ができなかったり、微熱が続き、座っていてもしんどい状況が続いたりする症状に悩まされ、そのとき、脇舛さんのお母さんは、脇舛さんを生かそうと必死だったそうです。

私は、学校で平和学習をしたり、テレビなどを見たりすることで戦争の悲惨さや原子爆弾について考えましたが、8月6日に広島を訪れ、被爆された方から直接お話を聴かせていただき、体に傷を残すだけでなく、心にまで残すのだと強く感じました。

また、折り鶴タワーから広島を眺めることができました。原爆資料館で見た78年前の地獄のような景色から復興のために、広島をはじめ、日本人たちだけでなく、アメリカやオーストラリアなどの兵隊も復興に向けて一生懸命取り組んだ強い気持ちを感じました。

戦争という悲しい歴史を繰り返さないためには、私たちから平和について考え、未来へ平和のバトンをつないでいきます。

伊賀市立城東中学校 壺井 善

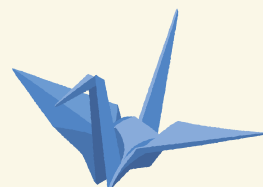
僕は脇舩友子さんからお話を聴かせてもらい、親の大切さに改めて気づきました。友子さんのお母さんは、原爆によって皮ふがたれ下がったり、目が飛び出たりした恐ろしい状態の人を友子さんに見てほしくなくて、自分の着ていたブラウスを脱いでかぶせたそうです。その話を聞いて友子さんのお母さんはとても友子さんのことが大切なのだと思います。そのことはどんな時でも僕の味方でいてくれ応援してくれる両親の姿と重なりました。僕の親が僕を産んで一生懸命育ててくれたおかげで今の僕があると思います。時には反抗してしまう時があるけどいつもそばにいてくれて困った時に助けてくれる両親を大切にします。また他に心に残ったことは「生きられている一日がとても大切。だからその一日を大切にしてほしい」という言葉です。僕はご飯が食べられて学校で友達と楽しく勉強できることがあたり前のことだと感じますが、世界ではご飯が食べられなかったり勉強できない国がたくさんあります。だから、僕はこれから一日を何となく生活するのではなく、何気ない毎日に感謝したいです。本川小学校に展示されていた溶けたガラス片などはどれも原爆の恐ろしさを物語っていました。その中で特に「安らかに眠ってください。過ちは繰り返させぬから」という言葉が印象に残りました。それを見て広島で起きたことはこの先絶対繰り返してはいけないことだと思います。そのために僕は今回学んできたすべてのことを仲間や家族、次の世代の人たちに伝えていきます。

伊賀市立上野南中学校 山崎 理子

広島に着いて、初めに実際に原爆を体験した脇舩さんから、お話を聞きました。私が特に心に残ったのは、つらい状況の中、脇舩さんをはげましながら、薬をあげるお母さんの姿や、医療技術が発達していない中、家族のために手術を受けようと決断した、お父さんのことです。脇舩さんは、自分がしてもらったことを、他の人にもやろうと思い、看護師になることを選んだと知りました。脇舩さんは面接の時に被爆しているかを聞かれたそうです。当時は「被爆していると役に立たない」と言われていたのでもうそをついたそうです。脇舩さんの親は、被爆している脇舩さんの体調を心配し、看護師になることを反対したそうです。反対されても、どうしても看護師になりたいという強い意思が、かっこいいと思いました。脇舩さんに夢を与えたり、体を心配して反対したり、でも看護師になってからは脇舩さんを支え、応援した両親のように、私も家族からたくさん大切にされているとあらためて思いました。そのことを忘れずに、自分のやりたいことをしっかり考えて、進路を決めていきたいと思いました。

2日目は、本川小学校へ行きました。小学校は爆心地にとっても近く、展示室には焼けて溶けたガラスや、くずれたかわらがありました。被爆後の小学校の写真は、黒板や机などが何もなく、学校とは思えないような光景でした。戦争はみんなのあたり前が一瞬でなくなってしまうものだなと感じました。

今、私があたり前に過ごしている毎日は、その当時にはなかったものとわかりました。そして、あたり前に過ごせる毎日を大切にしていこうと思いました。



伊賀市立柘植中学校 中村 心菜

1日目は、被爆体験講話、原爆の子の像への折り鶴献納などがありました。被爆体験講話では、脇舩さんからお話をいただきました。当時は空襲で火が一面に広がり、水がない地獄のような状況でした。親を失った子どもたちはいろんな家を転々としていたそうです。それを聴いて「私ならそんな環境や気持ちで生きていけない。」と思いました。また、原爆の放射線を受けてしまった脇舩さんを病院で治療するために、戦争から帰ってきたお父さんが必死に働いていたそうです。でもある日、お父さんが「どれだけ働いてもこの子にお金がとられていく。」と言った時、お母さんが、「何を間違ったことを！子どもの命ほど大切なものはない。」と言い、お父さんが「悪かった」と反省したという話も聴かせていただきました。脇舩さんは語っている時、涙をこらえていました。それを見て、「脇舩さんはすごく家族思いなんだな。私が今過ごしている日々はあたり前ではないんだな。」と実感しました。

2日目に訪れた折り鶴タワーで屋上から原爆ドームを見た時に、被爆した人の気持ちを理解しようと思っても、その全てを理解するのは難しいことだと思いました。だからこれからも学習を続けていきたいと思えます。そして、私は、毎日の日々や周りの人を大切に、学んだことを全校のみんなに伝えていきたいです。

伊賀市立霊峰中学校 久保 杏花里

1日目は、被爆体験講話、平和記念資料館見学、折り鶴献納、原爆ドームの見学をしました。私がそこで印象に残ったところは、被爆して亡くなった子ども達の遺品が展示されていたところです。7月28日にあった事前学習会で「夏服の少女たち」というビデオを見て、資料館には、そこに登場していた大下さんの遺品もありました。当時、中学生以上の学生は、建物疎開のあと片付けをするために多くの人が広島に残っていたそうです。大下さんもその一人でした。私は自分と同世代の多くの人々が、原爆被害にあっていたことがすごくつらいし、被爆した人の遺品を見て、その方たちの今までの生活が、一瞬にしてなくなり、これから生きられたはずの時間を奪ってしまう、原爆や核兵器はなくさないといけないと強く思いました。

2日目は、平和記念式典参列、本川小学校平和資料館見学、おりづるタワー展望台に行きました。平和記念式典では、海外の人も含めてすごくたくさんの方が参列していました。私は、子ども代表が言っていた平和への誓いを聞き、1945年8月6日の広島がどんな様子だったか想像できて、胸が苦しくなりました。それと同時に、今生きている私達には、それを伝えていく責任があると思いました。

この二日間を通して、たくさんのことを学び、体験しました。世界中の人々が平和を願っていて、自分もその一員となって活動できたことがすごくいい経験となりました。これから世界が平和になるように、自分にできることを精一杯していきます。



伊賀市立島ヶ原中学校 渡邊 茅

私は一度修学旅行で資料館に行ったことがあったので今回は2回目でしたが、一度行った経験があっても衝撃的でした。

入った時、最初に目に入ってきたのは、被爆者が着ていた服やかばんでした。それは布とは思えないほど変色していたり、いたる所に穴が空いていたりする形で置かれていて、当時の状態が伝わってきました。次に被爆者の残した言葉が目に入ってきました。「痛がってなかなか脱がせませんでした。」「このベルトだけをしっかりと握りしめていた。」など、たくさんの言葉を残して亡くなっていた方々が写真と一緒に展示されていました。私が一番印象に残っている展示は、「核実験を目撃させられ、皮膚がんが発症した住民」という写真です。無理やり見せられた実験で病気になってしまう当時の事実から、人々に人権がないことが伝わってきました。

広島派遣2日目では、朝から「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」に参加しました。祈念式がはじまってすぐにたくさんの代表の方々たちの献花がありました。私が一番印象深かったのが、「平和への誓い」という、地元の小学6年生のスピーチです。一つ一つの言葉を丁寧に伝えていく姿にとっても感動しました。大人の人たちの難しい言葉とは違い、素直で分かりやすく、だけど強い言葉で、本当に素敵だなと思いました。現在のロシアとウクライナの状況も加え、戦争の恐ろしさがある場にいた全員に伝わったのではないかと思うくらい、感情のこもった祈念式でした。

私はこの広島派遣で2日間の経験を通して改めて戦争は二度と繰り返してはいけない過ちだと思いました。そしてこれからも世界中が平和になるために、自分ができる事を精一杯頑張りたいと思いました。

伊賀市立阿山中学校 山口 慶子

原爆ドームの元は広島県産業奨励館と呼ばれ特産品の展示や催し物が開催されていました。1945年8月6日、広島に原爆が投下され当時の原爆ドームまで飲み込んでいきました。写真や映像で見る原爆ドームはとても大きく、当時の形を残しているように思っていました。しかし実際に訪れ、目の当たりにした姿は悲惨なものでした。周囲の煉瓦はなくなり、建物の屋根は鉄のパイプがむき出しになっていました。一方で、70年間草木は生えないと言われていた広島の今の姿は緑に囲まれていました。資料館から見た景色は美しく、広島の人たちの平和への願いを感じました。

平和記念式典で原爆死没者名簿奉納が行われました。そこには約5千人の名前が記されています。熱線で灼かれ、一瞬で失われた命、やけどや放射能症に苦しみながら失われていった命。どんなに想像しても考えても、今の私にはその本当の苦しみを知ることにはできないのかもしれませんが、二度と同じ過ちや苦しみを繰り返してはいけないという思いでこの奉納は行われていると強く感じました。

今回、伊賀市の9人の仲間と広島を訪れ式典に参加して、平和についてもっと学び、考えたいと思いました。尊い命が一瞬で失われ、生き延びた人たちの心にも大きな傷を残した戦争。今ある命がどれだけ尊く、大切なものかを考えたいと思います。式典で語られた子ども代表の誓いにあった「被爆者の思いを自分事として受け止め、自分の言葉で伝えていきます」という言葉のとおり、今回学んだことや考えたことをまず家族や学校の仲間に伝えたいと思います。今の暮らしや未来の平和を守るのは私たちです。二度と戦争を起こさない未来を、私たちが創っていきます。

伊賀市立大山田中学校 山本 乃々華

8月6日の朝、私は毎年テレビで見っていた広島平和記念式典に参列し、「なぜ、自分は生き残ったのか」という言葉から、生き延びた人々にも心に深い傷を負わせ、生きていくことへの苦しみを与え続けた原子爆弾の恐ろしさを改めて考えました。原爆はたくさんの人の命を奪っただけでなく今ある生活を一瞬で消してしまう恐ろしいものだと実感しました。

原爆の子の像には世界中から多くの折り鶴が寄せられていました。私も「戦争が早くなくなってほしい」と思いを込めて鶴を献納しました。12歳のときに原爆による白血病で入院し、鶴を折り続けた佐々木禎子さんの思いを知り、あたり前のように生活していた毎日はあたり前ではないことを改めて感じました。だからこそ自分自身を見つめ直し、目標に向けて努力し続けていきたいと思います。そして家族や友達と過ごせる時間を大切にしていきたいです。

2日間を通して、被爆体験講話を聞いたり資料館を見学したりする中で「二度と戦争が起きてほしくない」という思いがより一層強くなりました。この思いを自分の言葉で伝えていくことで自分事として受け止め、身近にある平和をつないでいきます。

伊賀市立青山中学校 山本 侑良

私は、青山中学校、また伊賀市を代表し、非核平和推進中学生として8月5～6日の2日間広島へ行ってきました。

1日目、私たち派遣団は広島のに降り立ち、平和記念公園を訪れました。そこでは、こども代表の二人がリハーサルしている声が聞こえ、いよいよ「あの日」が明日に近付いているんだという実感が沸き、さらに身が引きしまりました。

それから、私たちは原爆の子の像まで行きました。そこには、数え切れないほどたくさんの千羽鶴が献納されており、その数だけの日本中、そして世界中の様々な人々の平和への願いが込められていると思うと、温かい気持ちでいっぱいになりました。

2日目は、朝早くから平和記念式典に参加させていただきました。入場する前に、荷物検査があり、とても厳重で、私たちは全世界が注目する式典に参加するとても貴重な経験をさせてもらっているんだということ、改めて実感しました。中でも、子ども代表の「平和への誓い」には胸を打たれました。「身近なところにも、たくさんの平和があります。」と聞いた時、ハッとしました。「与えられた時間を毎日大切にできているだろうか」「習慣があたり前になり、幸せを見逃していないだろうか。」私は、今感じたこの感覚を忘れてはいけないと思いました。これから、3日間で得た経験、感じた気持ちを胸に刻み、一日一日を大切にしていきます。



